

【出題意図】

ヤングケアラーという存在がにわかに注目されるようになってきている。経済的な理由で高校や大学に進学できない人のために無償化措置等がとられるようになってきたが、ケアのためにそもそも勉強する時間がなかったり、家族の中でケア労働力として期待されるため自宅を離れた進学ができないなどの悩みを抱えた人たちがいる。高齢化でケアを必要とする人が増える一方、共働きやひとり親世帯の増加、核家族化や長時間労働などで、家族の中の人手は減り、世話を日常的に担う子どもは増える傾向で、子どもの権利や学ぶ機会の保障という観点からこれは看過されてはならない問題である。

個人間のみならず家族間格差が広がる現代にあって、家族に問題を丸投げせず社会問題としてヤングケアラー問題をとらえ、可能な支援の在り方を探り、考え、提言していくことが、現実社会としての国や地域社会に喫緊の課題として求められている。ヤングケアラーである若者にとってのみならずそうでない若者にとっても、現代社会のケーススタディの一つとして深く考えることが有用であり、当学部の求める学生像としてこのような問題に関心を持ってもらいたいということからこれをテーマとして出題した。

問1と問6は、字数制限を付けて資料の中の該当箇所を探す問題で、いずれも資料記号を示していないが、字数が明示されていることで、該当箇所はおのずと決まってくる。問2は字数制限はないが、資料の中の最も適切な箇所を探して解答する問題である。問3は所属高校の種別とヤングケアラーの関係を問うものであるが、資料を示し、かつ字数を明示していることで、書くべき内容が決まってくる。問4は図表を正確に読み取ることができるかを問うものである。問5は一見正当な価値観では対処できない現実を、明示してある資料から把握してもらう問題である。問7は解決策が容易に示されない問題を前にして、資料全体の正確な読解を前提に、受験生にある程度想像力を働かせて解答してもらうことを目的とし、同時に文章表現の適切さをはかる問題とした。

【解答例】

問1

大人の代わりに家事や介護といった家族の世話を担っている子ども (27字)

問2

ヤングケアラーという視点をこれまで教員も持っていなかったというのが事実であること

問3

政府の調査で、ヤングケアラーの割合は、定時制では全日制の倍以上、また通信制では全日制の3倍弱近くにのぼる。そもそも、ケアのために、全日制への進学を諦めたり、やめたりしたと回答した生徒もいることからして、学業に深刻な影響が出ている可能性がある。(116字)

問4

ケアにかける時間にかかわらず、平日、休日のいずれにおいても、勉強時間が15分未満と回答した人の割合がそれより多い勉強時間と回答した人よりもほとんどの場合で多くなっているが、この勉強時間が15分未満という回答に注目すると、ケアにかける時間が長いと勉強時間が短くなる傾向があるといえる。

問5

子どもは自分の勉強や友達つきあいや体験を広げることに自分の時間と力を使えるものだとされている社会では、家族の事情でケアを担い、学校生活や人間関係が十分に維持できないことが、ヤングケアラーを肩身の狭い状況に置き、かつ現在の日本では就職活動で履歴書に書けるような学歴や職歴や資格を持っているかで審査されるため、その仕組みは、自分のことだけに集中して時間を使ってこられなかったヤングケアラーにとって不利に働くから。

問6

高齢化でケアを必要とする人が増える一方、共働きやひとり親世帯の増加、核家族化や長時間労働などで、家族の中の人手は減っていること。(64字)

問7

ヤングケアラーが今日社会問題としてとらえられなければならないのは、ヤングケアラーとなっている子どもの権利が脅かされ、学ぶ機会が十分保障されていないからである。その解決のためには、第一に子ども本人が「自分はヤングケアラーである」ことの自覚を持てるようにしなければならない。そのためには、学校での啓発が一番良い。公的機関が啓発のパンフレット等を作り、学校に配布し、HR等で少しの時間でもよいので教師が説明するようにする。一方、教師が子どもの様子を見守り、変化がみられる子どもに注意する。しかし、学校だけに頼るのは難しい。家庭での状況を隠す子どもや親がいる可能性があり、また隠さずに話してくれたとしても、要介護者の存在を学校はどうすることもできないからである。学校から家庭の状況に踏み込んで聞き出すのは困難で、まして、親や子どもの側が隠したい場合は、不可能に近い。そこで、役所や病院、介護施設など、要介護者のためにヤングケアラーがかかわる機関にいる大人が、子どもの介護者の存在を注視するのがよいと思われる。実際に子どもが付き添っていたり、手続きをしていたりしたら要注意で、介護の実態を当の子どもに聴き取り、過度な負担がかかっているようなら、要介護者の状態がよくわかっているそれらの機関が公的介護を増やし、子どもの負担を減らすようにもっていくべきだろう。また、それらの機関から学校への通報をし、情報を共有することが考えられる。(597字)